

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2022年度学校自己評価」を報告するものです。

①自己評価は次の14領域（部署）で実施しました。

- ・各学年団（中学1・2・3年GS/中IDS～高校3年の6学年7領域）
- ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会 7領域）

②評価法

- ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定しました。
- ・年度末に、実践内容について評価しました。
- ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階としました。

③改善・向上策・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載しました。

## 学年の部

### 2022年度

中学1年～3年 グローバル・ストリーム(GS) (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域   | 対象       | 評価項目               | 実践目標  | 実践内容  | 評価   | 改善策・向上策  |   |
|------|----------|--------------------|---|---|--|--|---|
| 中学GS | 目標       | 目標の理解と実践           | 「Know the World: Embrace the Unknown.世界の有り様を知り、未知との遭遇を楽しみましょう」<br>「Understand the world: Build Bridges 世界の有り様を理解し、知識を連結・統合する」 | 何かある度に目標を引用して今の自分たちの位置づけを説明した。また、中学1年生は知識をインプットする時期で学ぶことが多いが、それが〇〇につながるや〇〇と関係している、また〇〇で面白よね?など、好奇心を掻き立てるような声掛けを行い続けた。 | A  | 色んなことができるようになったことで生徒たちは自信をつけたように見える。今後も知的好奇心を高める工夫を行いながら、その背中を常に押すサポートを続けたい。 |   |
|      | 生活指導     | 指導方針の確認<br>指導体制の推進 | 校則については年度初めに教員間で確認、また迷いが出ればその都度、確認する。安心できる学習環境が一番、何か教室で起こっているようならすぐに教員内で報告相談連絡。   | 教員間で常に生徒状況を報告し合い、校則については指導の統一ができるように、また不安をかかえている生徒がいるなら、その指導について話し合い、生徒や保護者が安心するよう取り組んだ。                              | A  | 教員間で話し合い、指導について共通理解ができた。(正解かどうかは分からなくとも)、生徒にとって常に最善の方法を教員間で常に話し合い、実践できた。     |   |
|      | 学習指導     | 普通の指導              |   |   | 終礼で宿題の確認を行ったり、大きなテストの後には、振り返りをつけたり等、何のために、何をすべきか、また反省点は何か分かる振り返りの機会を多くとった。 | A  | 中学の段階では当たり前のようにこの振り返りをできるようになるまで、生徒に伝えていくことが必要。今後も声をかけ続け、常に何のために、何をすべきかを意識させ続けたい。 |
|      |          | 音読                 | 朝の音読を3種類(知識の音読、表現の音読、定着の音読)に分け、語彙力や表現力を伸ばし、ポートフォリオで自己を振り返る。また普段からの声や担任との面談を通して、基礎学力の定着及び、学習意欲を向上させる。                          | ニュースで語彙を増やしたり、演劇練習で表現力を伸ばしたり、暗記するために音読したりで、知識を増やし、表現力を養う練習を行った。   | A  | 毎朝、帯活動のように声を出す発声法を自分たちで考えて、継続して行った成果が出た。                                     |   |
|      |          | ポートフォリオ            |   | チームスで教員と対象生徒のみが閲覧可能なエクセルファイルを作成し、そこに定期考査、実力考査、評定をまとめた表や約20項目の1問1答型の振り返りポートフォリオを作成した。情報を集約しすぐに振り返られるようにした。             | A  | チームスの課題に張り付ける形で、提出を行った。以前よりも見やすくなった。   |   |
|      |          | 教科横断               | 教科横断型で教育課程を考え、より深い学びを得て、なおかつ定着して欲しいスキルを効率よく定着させる。   | 各学期に3つずつ教科を横断するテーマやスキルを設定し、取り組んだ。   | A  | 連携して取り組む効果は絶大。年々、より良い形に仕上がっている。  |   |
|      | GL探究(総合) | プレゼンテーション          | あるテーマについて学校で1番、教員も敵わない知識を持つことが目標。か  | ①学期プレゼンテーマ<br>前半:SDGs、後半:校外学習案  | A  | PPTを用いたプレゼンテーションの型を習得することができた。回数を重ねるご  |   |

|            |                          |   |  |   |
|------------|--------------------------|---|--|---|
|            |                          | つ、パワーポイント(PPT)を用いてプレゼンテーションを行う。   | ②学期プレゼンテーマ<br>「日常のなぜ～さらにその先へ～」<br>③学期プレゼンテーマ<br>「好きなこと全カアピール」J1は日本語、J2は英語。中3は「3学年の振り返り」  | とに生徒たちが明らかに場慣れしている様子が見えた。3学期にはPPTだけでなく、英語動画まで編集して作成することができた。内容面でも目標の通り、教員が知らないような知識まで調べあげて発表した。教員の期待以上の成果を出した。  |
|            | ディスカッション<br>&ディベート       | 生徒同士で話し合い、知識を深める。その後、小論文を作成し、生徒同士で相互評価や教員からフィードバックを受け、さらに良いものへ仕上げる。   | 各学年のテーマ<br>中学1年GS：自動運転の賛否、レジ袋有料化の賛否、既読スルー、割り箸の賛否、防災バッグ30、English Central 英語動画作成<br>中学2年GS：新しい教科を作るなら何？、出生率の問題と改善案、NIPTの賛否、The Coveがアカデミー受賞の賛否、Youtuberの分析、English Central 英語動画作成<br>中学3年：エシカル消費、ジェンダー、合意形成、新しい国(税や福祉)、3年間の振り返り | A<br>これまでに考えたことがあるものや身近なものに関しては深い部分まで考察できるが、多角的な分析が必要なテーマに関しては、まだ知識や足らず、事前学習の設定を念入りに行う必要がある。それと同時に、教員側の問いの設定を見直す必要を感じている。難しいテーマの場合は、より身近な言葉や問いにしてから取り組むよう再度、調整する。 |
|            | 行事企画運営                   | ①奉仕活動の日、②校外学習(教員主導)、③校外学習(生徒主導)<br>学内行事ではその意図を見極め、適切なものを考え出し、実行する。教員主導のものは、学んで欲しいもの、生徒主導は、自分たちで計画実行し、学びをデザインする。 | ①学期 世界探訪オンライン、J1&J2 JICA 関西と人と未来防災センター、J3 京都<br>②学期 企業連携授業、J1 ピース&ネイチャー、J2 カップヌードルミュージアム、五月山動物園、大阪市立科学館、J3 大阪下水道科学館、スカイビル、J2 ブリティッシュヒルズ<br>③学期：火起こし、J2 美野丘小学校 J3 フィリピン研修   | A<br>①学期の世界探訪&校外学習から、2学期の校外学習案を考え、奉仕活動の日に実践という流れをとった。校外学習案を考えるのは良いタイミングだったが、予約がとれないという状況になるので、タイミングを2学期初めにする方が良い。   |
|            | 時事ニュース                   | 時事ニュースを習慣的に読み、世界の実状を知る。また、ニュースで使われる語彙表現を学ぶ。   | 気になるニュースを毎週、自分のことばでまとめ、感想とキーワードとなる言葉や用語を書く。また、1人ずつ発表もを行い、GS生に問いをなげかけ、全員の考えを知る。   | A<br>発表の場を設定し、みんなで同じ問題について考えるのが非常に良かった。また問づくりの良い、練習になった。  |
| ミカエル国際学校連携 | GSM<br>土曜日講座<br>ミカエル連携授業 | ミカエル国際学校と連携し、インターナショナルな環境で授業を受け、英語で何かを学ぶイマージョン教育を行う。教科横断のカリキュラム内容を松蔭側と相談の上、決定して効果的な授業を行う。                       | 満足度調査などで生徒の様子を確認しながら、松蔭側の要望や現在の生徒の様子(英語レベル、英語の取りくみ、ICTスキルなど)をその都度、報告した。  | B<br>教室内は英語ルールを作成したが、気をぬくとすぐにダレてしまう。満足度が今年度も低い。昨年度よりは改善されが、まだまだ改善の余地がある。  |
| 実社会        | 実社会とのつながり                | 企業と連携したり、外部コンテストに応募したりで、学びを松蔭という枠だけにとどめず、外の社会とつながる取り組みを行う。  | 「防災バッグ30」の開発先である株式会社山善より生徒小論文へコメントを頂きフィードバック。English Central Award 2022 応募。企業連携授業の実施。  | A<br>実際の企業と連携して学びを深めたり、学外コンテストに応募したりで今後も実社会とのつながりを直に意識できる取り組みを多く行いたい。   |

中IDS (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域     | 対象    | 評価項目            | 実践目標                                   | 実践内容   | 評価 | 改善策・向上策   |
|--------|-------|-----------------|--|--|----|---|
| 中学一年DS | 学年の目標 | 学年の目標の理解と実践     | 学年目標を「ともに歩む」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。 | 1. 学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げる。   | B  | ・しっかりと取り組めた場面もあったが、常に意識をするところまではいかなかった。継続して粘り強く声掛けをしていく。                  |
|        | 生活指導  | 指導方針の確認と指導体制の推進 | 年度初めに方針の確認をする。                         | 1. 学年団全体で生徒を見守り、必要に応じて保護者とも電話・メール・面談などによって連携をとる。<br>2. 教員間で、情報交換をこまめにおこなった。保健室・相談室との連携も心がける。 | B  | ・風紀面や生活のルールについて、朝終礼や集会で話をした。全員が守れるように徹底させていきたい。                           |
|        | 学習指導  | 基礎学力の定着と学習意欲の向上 | 中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。                | 1. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活の予定や見通しを手帳に整理する習慣をつける。<br>2. 朝礼前の5分間を「手帳の時間」として、1日の計画を考えさせる時間とす        | B  | ・手帳の取り組みは個人によって差があった。共通して取り組む部分をきちんと定着させることができるようにしたい。<br>・補い生徒の補習は英数国の3教 |

|      |   |   |  |   |   |  |
|------|---|---|--|---|---|--|
|      |   |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>る。</li> <li>3. 各考査後に成績不振の生徒に対して補習を実施する。</li> <li>4. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週水曜日の放課後に数学特進講座を開講する。</li> <li>5. 2学期以降、全員受験の実力テストと、希望者による実力テストを学期ごとに実施する。</li> </ul> |   | <p>科を中心に実施した。効果が実感できていないところもあったので、工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者実力テストへの参加者を増やす工夫や指導が必要である。</li> </ul> |
| 総合学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. マナー</li> <li>2. 心のマナー</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. マナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。</li> <li>2. コミュニケーション上の問題が多い時期であることを念頭に、他者を理解しつつ、上手に自己主張を行えるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを学習する。</li> <li>2. スクールカウンセラーによる「心の授業」を各学期に実施する。レジリエンスや人間関係の緊張を緩和する方法について学ぶ。</li> </ul>                                | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスで話し合ったクラスの安心ルールを実践面に結びつけるところまではできていなかったように感じられる。</li> <li>・スクールカウンセラーによる講座は生徒に分かりやすく、実際に役立つ内容であった。グループワークを通して、日常での出来事と結び付けて、行動できるように考えさせた。</li> </ul> |  |
| 行事   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 夏のキャンプ</li> <li>2. 秋の校外学習</li> <li>3. 芸術鑑賞</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。</li> <li>2. 地域の産業、歴史に触れる</li> <li>3. 臨場感ある芸術鑑賞によって感性を磨く。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 集団での過ごし方を意識する。友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうようにする。</li> <li>2. 秋の校外学習では丹波篠山を探访する。立杭焼き体験と史跡訪問をおこなう。</li> <li>3. 2学期に「わくわくオーケストラ」参加した。</li> </ul> | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏のキャンプは、友人と協力して集団生活を送ることを学ぶことができた。</li> <li>・校外学習では生徒たちは意欲的に取り組んだ。体験する機会としてもよかった。</li> <li>・オーケストラで使われる楽器の紹介や聴きなじみのある音楽を楽しむことができた。</li> </ul>             |  |

中2DS (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域             | 対象    | 評価項目            | 実践目標   | 実践内容   | 評価 | 改善策・向上策   |
|----------------|-------|-----------------|--|--|----|---|
| 中学<br>二年<br>DS | 学年の目標 | 学年の目標の理解と実践     | 学年目標を「彩」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。   | 学年集会・DSだより・各クラスでのHR等で取り上げた。  | B  | 常に意識をるところまでにはいかなかった。継続して粘り強く声掛けをしたり、DSだより等で取り上げたりしていく。  |
|                | 学習指導  | 基礎学力の定着と学習意欲の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限、学習計画等に手帳を活用し、時間管理・自己管理に繋げる。</li> <li>2. 成績下位層の生徒に対してサポートを行い、底上げを図る。</li> <li>3. 応用・実践力を試す機会を設ける。</li> <li>4. 成績上位層の生徒に対してサポートをおこない、学習意欲と能力を伸ばす。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 土曜日の朝礼前の5分間を「手帳の時間」として設定した。また、授業や朝終礼、HRでの連絡の際に手帳の活用を習慣づけるようにした。</li> <li>2. 定期考査の成績不振の生徒に対して、次回考査前を中心に補習を実施した。</li> <li>3. 全員受験及び希望者による実力考査を学期ごとに実施し、解答配布後には解き直しをさせた。後日解説会も実施した。</li> <li>4. 数学の成績中上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講した。</li> </ul> | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 取り組みは個人によって差があった。次年度は過去2年間の経験をふまえて、各自で手帳を購入させて活用していく。</li> <li>2. 引き続き効果的な補習をおこなっていく。</li> <li>3. 応用力をつけることを意識した授業をおこなう。希望者の実力受験者数を伸ばす工夫をする。</li> <li>4. 次年度も開講し、中上位層の学習意欲と能力の向上を図る。</li> </ul> |
|                | 生活指導  | 指導方針の確認と指導体制の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 頭髪等の風紀面について、教員間で意思統一して指導をおこなう。</li> <li>2. 携帯やタブレットの使い方について、教員間で意思統一して指導をおこなう。</li> <li>3. 生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談等の生徒対応に活かす。</li> <li>4. 新型コロナウイルスの適切な予防対策をおこなう。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 本校の規定や指導ガイドラインに照らし合わせて適宜指導した。</li> <li>2. 本校の規定にふまえて、学年集会・DSだより・HR等の機会を使って周知し、指導した。</li> <li>3. 1学期中間考査最終日に実施した。</li> <li>4. 手洗い・消毒・マスク・換気等の基本的な予防に加え、昼食時の声掛け・指導をおこなった。健康観察アンケートを入力させた。</li> </ul>   | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 風紀面についての乱れはほとんどなかった。今後も必要な指導を継続していく。</li> <li>2. ルールを意識して使用できる生徒が多くなったが、個人差もあるので、粘り強く指導していく。</li> <li>3. 次年度も同時期に実施して、生徒対応に生かす。</li> <li>4. 社会の感染対策状況を踏まえて、適切な指導をしていく。</li> </ul>               |

|      |   |  |  |   |  |
|------|---|--|--|---|--|
| 総合学習 | 「いのち」についての学習  | 1.命を授かるということテーマに、その偶然性や大切さを理解させ、「生」について考える。<br>2.看護の現場に働く人、死を看取る側の人、病を抱えて生きる人など、「生」や「死」に関わる様々な立場の人に触れることで、「死」について考えるとともに、「生き方」について考えさせる。 | 1.様々な夫婦に関わるドキュメンタリー映像の視聴を通して、命を授かることが簡単なことではないこと、生まれてくる命が万全とは限らないことなどを自覚させるとともに、命を授かることには大きな責任が伴うことを理解させた。<br>2.救急病棟の看護師の話を聴いたり、看取りにかかわる本を読み聞かせたり、病を抱えて生きた人のドキュメンタリー映像を視聴したりすることで、生きることの有難さを実感させるとともに、いつかは死ぬということも実感させ、自分という存在が限られた時間の中の大切な命であるということに気づかせ、どのように生きていくべきかを考えさせた。 | A | 1.今回感じたことや考えたことを大切にし、将来命を授かる際に生かしてほしい。<br>2.死から目を背けるのではなく、死にも向き合うことで、生きることの大切さをより実感してほしい。命や時間の大切さを実感することによって、今やるべきことをしっかりとやり、考えをもって生きていてほしい。                         |
| 行事   | 1.春の遠足<br>2.秋の校外学習<br>3.British Hill 国内英語研修<br>4.奉仕活動の日 | 1.自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。<br>2.阪神淡路大震災について学ぶ。実物大の美術作品に触れる。<br>3.授業で学んだ知識を活かし、英語力を高め、英国文化を体感する。<br>4.学年全体で取り組み、社会のためになる活動をおこなう。               | 1.六甲山系のロックガーデンから風吹岩へのハイキングコースを散策した。<br>2.北淡震災記念公園を訪れ、野島断層を見学して、多くのことを学んだ。大塚国際美術館では、実物大の作品に触れた。<br>3.福島県にある British Hill を訪れ、英語研修をおこなった。<br>4.千羽鶴を作り、ヒロシマへ送る活動に取り組んだ。   | A | 1.次年度も六甲山系の別コースで自然の大切さを学ぶ。<br>2.生徒達は意欲的に見学していた。感染状況も落ち着いていて、実施できて良かった。<br>3.楽しみながら英語力を高めるプログラムであった。最終日の行程にゆとりを持たせるようにする。<br>4.年度内に必要数の折り鶴は完成した。次年度に仕上げをし、夏休みに現地に届ける。 |
| その他  | ICTの活用  | 授業や総合学習、HR等で活用していく。こうした学校活動を通してICTリテラシーを向上させる。   | 教科やクラスの連絡ツールとしてClassiを活用していた。一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり、課題をさせたりした。この利用を介して必要なスキルを身につけた。  | B | 授業での活用の余地はまだあるので、今後も様々な教科での活用を推進していく。<br>様々なアプリの利用やオンライン授業を通して、ICTリテラシーは向上しているが、まだまだ個人差があるので、全体的な向上を図る。さらに資料作成やプレゼンテーション等のスキルも向上させていく。                               |

中3DS (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域   | 対象         | 評価項目             | 実践目標   | 実践内容  | 評価                | 改善策・向上策  |
|------|------------|------------------|--|---|-------------------|--|
| DS   | ストリームの目標   | 学年の目標の理解と実践      | 学年目標を「生き抜く力、思いやる心」とし、様々な場面で生徒に趣旨を説明し、声かけをする。   | 学年集会・DS通信・HR等で機会があるごとに触れるとともに、目標を意識しながら指導にあたった。   | B                 | 単年の目標ではないこともあり、定着には時間を要するが、常に意識を持たせるように、場面場面で継続して粘り強く声かけをする。   |
|      | 学習指導       | 基礎学力の定着と学習意欲の向上  | 1.授業や行事予定の確認、持ち物や提出期限のメモ、学習計画等に手帳を活用する習慣を身につけさせ、時間管理・自己管理に繋げる。<br>2.成績下位層の生徒に対してサポートを行い、底上げを図る。<br>3.応用・実践力を試す機会を設け、入試等の問題を解く力をつけさせる。<br>4.成績上位層の生徒に対してサポートを行い、学習意欲と能力をさらに伸ばす。<br>5.情報収集、要約、発信力を鍛え、社会で必要となる能力を身につけさせる。 | 1.朝礼前の5分間を「手帳の時間」として設定したほか、授業やHRでの連絡の際に手帳に書かせるなど、手帳の活用を習慣づけるようにした。定期・実力考査前には「やることリスト」を作成させ、学習計画を手帳に落とし込ませた。<br>2.定期考査の成績不振の生徒に対して、考査直後と次回考査前で実施時期を使い分けて補習を実施した。<br>3.全員受験及び希望者による実力考査を学期ごとに実施し、解答配布後には解き直しをさせた。また、基礎学力判定試験を見据え、夏季休暇では一昨年の問題を宿題としたほか、2学期の授業短縮時間にはプレテストとして昨年の問題を学校で受験させた。<br>4.数学の成績上位層の力を伸ばす目的で毎週月曜日の放課後に数学特進講座を開講した。<br>5.世の中の出来事について調べ、要点をまとめ、意見・感想を書く「MY NEWS」を提出させた。 | A                 | 1.取り組みは個人によって差がある。個人に任せず全体で書かせる時間を増やし、手帳の利用を定着させ、時間管理・自己管理に繋げていきたい。<br>2.引き続き効果的な補習を行っていく。<br>3.実力考査や基礎学力判定試験を実施する以外にも、応用力をつけることを意識した授業を行っていく。<br>4.次年度も引き続き開講し、上位層の学習意欲と能力の向上を図る。<br>5.提出させるだけでなく、添削などの内容に関するフォローを行うことで、書く力もつけさせたい。 |
| 生活指導 | 指導方針の確認と指導 | 1.服装・頭髪等の風紀面について | 1.本校の規定に照らし合わせて適宜指導  | B   | 1.風紀面についての乱れはほとんど |  |

|      |                                     |  |  |   |   |
|------|-------------------------------------|--|--|---|---|
|      | 体制の推進                               | て、学年の教員間で意思統一して指導を行う。<br>2. 携帯電話やタブレットの使い方について、学年の教員間で意思統一して指導を行う。<br>3. 生活アンケートを実施し、生徒の状況把握に努め、面談やその後の生徒対応に活かす。<br>4. 新型コロナウイルスの感染予防対策を行うとともに、生徒に対して適切な指導を行う。   | した。<br>2. 本校の規定に加え、学年でもルールを定め、学年集会・DS通信・HR等の機会があるごとに周知し、指導した。<br>3. 1学期と2学期に実施し、面談等に活用した。<br>4. 手洗い・マスク・換気・昼食時の声掛けなどの指導を徹底した。  |   | どなかったが、今後も必要な指導を継続していく。<br>2. ルールを意識しながら使用できる生徒が多くなったと思うが、引き続き粘り強く指導していく。<br>3. 次年度は学期に1回実施し、生徒対応に生かす。<br>4. 声掛けをしないと対策がおろそかになる生徒がまだいるので、意識づけ、習慣づけるように粘り強く指導していく。   |
| 総合学習 | 「進路」「平和」についての学習                     | 1. 進路（進路）<br>中学と高校の違いを学び、自分の適性を知り、身近な人の職業を知る。<br>2. 進路（手帳）<br>進路実現に向けての「計画する力」、「振り返る力」、「見つめなおして次に活かせる力」を養う。<br>3. 進路（小論文）<br>自分自身を見つめなおし、「人に負けないあなたの強み」を小論文にする。<br>4. 平和学習<br>国内外の紛争や戦争について考え、平和への提言をまとめ、発表する。 | 1. 高校生活や学習において最低限求められることや、進路実現のために必要なことについて調べたほか、卒業生の講演を通して将来の進路について考えさせた。<br>2. 行事予定や提出物の期限などの確認のために活用させたほか、定期考査や実力考査の学習計画を立てさせ、計画に従って実践する習慣を身に付けさせた。<br>3. 業者のテキストを利用し、「序論」「本論」「結論」の構成を意識させながら、自分の強みについてまとめさせた。最終的には、小論文のテストという形で書かせたものを業者に添削してもらった。<br>4. シリアの内戦や広島原爆投下についての講演を聴いたり、戦争に関わる映画を鑑賞したりして、どのようにすれば平和な世界になるのかを考えさせ、「平和への提言」という形で発表させた。また、修学旅行で沖縄に行くことから、沖縄戦について調べた上で現地を訪れた。 | A | 1. 調べたことや講演を通して、どのようなことを意識して高校生活を送り、将来の進路に繋げていくか真剣に考えてほしい。<br>2. 必要な勉強を行おうとすると、意外と時間が足りないということに気づかせ、効率よく勉強するためには手帳を活用する必要があることを伝え続けていく。<br>3. 一から書き上げていく力はまだ身についていないため、業者のテキストを使用し、内容をステップアップさせていく。<br>4. 見たり聞いたり調べたりすることで留まることなく、改善策・解決策を考えさせ、行動に移すことを促していく。 |
| 行事   | 1. 春の遠足<br>2. 修学旅行（沖縄）<br>3. 奉仕活動の日 | 1. 自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。<br>2. 沖縄戦を通して、平和学習を行う。また、沖縄の歴史・文化・自然に触れる。<br>3. 平和学習の一環として、言語探究で行った平和への提言の中から行動に移せるものを選び、実施する。  | 1. 新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったため、無理のない行程（谷上駅⇨森林植物園）で行うことにした。<br>2. 祈念公園、資料館、ガマなどを訪れ、沖縄戦を肌で感じ、平和について考えさせた。また、水族館を回ったり、マリンスポーツ行ったほか、サンゴ再生プログラムを通して、沖縄について知り、学び、体験させた。<br>3. 自分たちのできる範囲の支援ということで、家庭内の不用品を集め、寄付し、アジアの子どもたちを支援する取り組みを行った。  | A | 1. 次年度はもう少し長い行程になるような目的地を選びたい。<br>2. 英語体験プログラムの実施は良かったが、受け身の体験ばかりでなく、その場で考えさせて行動に移すようなプログラムをもう少し盛り込んでもよいと思った。<br>3. 1800点近くの不用品を集めることができたのは良かったが、仲介業者への送料が高額にならないような工夫が必要である。   |
| その他  | ICTの活用                              | 1. 授業や総合学習、HR活動等で活用していく。<br>2. ICTを利用した学校活動を通してICTリテラシーを向上させる。   | 1. 教科やクラスの連絡ツールとしてClassiを活用しているほか、一部の授業ではアプリケーションソフトを利用して授業を進めたり課題をさせたりしている。<br>2. 1の利用を介して必要なスキルを身につけている。   | B | 1. 授業での活用の余地はまだまだあるので、今後様々な教科での活用を推進していきたい。<br>2. 授業支援アプリの利用やオンライン授業を通してICTリテラシーは向上しているが、今後は資料作成やプレゼン等のスキルも向上させていきたい。   |

高校1年（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

| 領域  | 対象    | 評価項目            | 実践目標  | 実践内容   | 評価 | 改善策・向上策                                |
|-----|-------|-----------------|---|--|----|--|
| 高校1 | 学年の目標 | 学年の目標の理解と実践     | ・“If you dream it, you can do it.”                              | 1. 目標を教室と廊下に掲示。学年集会、学年だより等の配布物で触れて意識させる。                                   | B  | 進路に向かっていく中の基本的な姿勢として根付くよう、機会を見て伝えていく。  |
|     | 生活指導  | 指導方針の確認と指導体制の推進 | ・年度の始めの会議で教員間で共通理解を持つ。<br>・会議の場ではもちろん、普段から生徒の様子を共有し適切な声掛けをしていく。 | 1. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話・メール・面談など必要な連携をとる<br>2. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をこまめに行う。 | A  | ・より細やかに対応できるように面談等で得た情報を共有する場を意識的に増やす。 |

|   |      |                          |  |  |   |   |
|---|------|--------------------------|--|--|---|---|
| 年 | 学習指導 | 高校1年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上 | ・短い時間であっても毎日課外学習を継続する。<br>・進路に向けて放課後や長期休暇に講習を設定する。               | 1. 朝礼前の5分間を使って、各科目の学習に取り組む。<br>2. 全員受験の実力考査を年に3回、スタディーサポートを年2回実施する。<br>3. 放課後に数学・英語の講習を実施する。長期休暇にも講習を設定する。   | B | ・朝学は個人によって取り組みの姿勢の差が大きい。全員でやるという雰囲気づくりが必要。<br>・講習に来ている生徒は概ね前向きだが、数が少ない。進路に対する意識を向上させ、やって当たり前という気持ちにさせたい。                      |
|   | 言語探究 | 進路と社会問題について学ぶ            | ・進路シミュレーション・進路講話などを通して、具体的な進路選択を探る。<br>・身の回りの問題を自分事として考えることができる。 | 1. 職業研究、「進路の手引き」を使ったオリエンテーション、夢ナビプログラム参加、OG講演会、進路シミュレーションなど進路関連の取り組みを行う。<br>2. Blue Earth Projectの取り組みについてレクチャーを受けた後、海に関する啓発プロジェクト「うみぼす甲子園」に参加する。<br>3. 自分の興味がある社会問題について、一人ひとり発表を行う。改善できるような同じ形式で2度実施する。 | A | ・進路について働きかけは少なくないと思われるが、まだまだ意識が低い。個別に声掛けをしていく量を増やす必要がある。<br>・発表については形になってきている部分も見られるが、内容に深みが増すようにするために、資料・情報を批判的に読み取れるよう促したい。 |
|   | 学年行事 | 遠足・校外学習                  | ・登山を通じて神戸の自然に触れる<br>・奈良での一日の過ごし方のプランを作り、実践する。                    | 1. 新神戸ー修法ヶ原ー諏訪神社のルートでハイキング。<br>2. 奈良自由散策。  | A | ・どちらの行事も好天に恵まれ、のびのびと過ごすことができた。<br>・校外学習についてはスケジュールが厳しいグループもあった。   |

高校2年 ( A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった )

| 領域   | 対象    | 評価項目            | 実践目標                                     | 実践内容   | 評価 | 改善策・向上策   |
|------|-------|-----------------|--|--|----|---|
| 高校2年 | 学年の目標 | 学年の目標の理解と実践     | 「自他を大切に」                                 | 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。  | B  | 様々な時間で、目標を意識した言葉かけがなされている。  |
|      | 生活指導  | 指導方針の確認と指導体制の推進 | 年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。教員一丸となって取り組む。 | 1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が協力して取り組む。<br>2. 生徒の様子を常に見守り、保護者とも電話、メール、面談など必要な連携をとる。<br>3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。<br>4. 学期に一度以上の生徒との個人面談の時間をとる。 | B  | ・職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通認識を持って生徒にあたるよう心がけた。<br>・遅刻の多い生徒への対応をもう少しこまめにすべきであったか。 |

|      |                                      |  |  |   |   |
|------|--------------------------------------|--|--|---|---|
| 学習指導 | 高校2年生としての基礎学力の定着と進路に向けた活動を通じた学習意欲の向上 | 高校2年で必要な学力を定着させ、さらなる学習意欲の継続・向上を促す。<br>自主的な学習ができるように促していく。<br>進路に向けて具体的に取るよう、さまざまな情報を与える。   | 1. 朝8時より「朝寺子屋」を実施。朝礼前の5分と併せて学習に入る姿勢作りを心掛けさせる。<br>2. 全員受験の実力考査は年に3回、スタディサポートを年2回実施。その他希望者対象のマーク式実力考査を実施。<br>3. 英語検定・漢字検定に取り組む。<br>4. ポートフォリオの活用のため、長期休暇ごとに課題を配信する。<br>5. 学期中および長期休暇中、必要に応じて進学補習を実施する。<br>6. 土曜日3時間目の「課題学習」の時間を有効に活用する。Classiの学習動画利用などを通じ、自分に合った学習内容・学習材料を各自で用意し、自主的に取り組む。校内予備校の受講者は、土曜日3時間目及び月曜日の放課後講座を受講する。<br>7. 進路意識を高め学習につなげるよう、学期に一度の進路調査および進路面談を実施。また、OGを招いて職業(看護師)や学問(心理学)についての懇話会を実施。<br>8. 学習への取り組みの一つとして自習室の利用を促す。下校時間後の利用も試みる。               | B | ・定期的に実施した朝寺子屋、進学補習等を通して年間の流れを意識した学習をするよう指導することができた。<br>・進路に向けての自主的な学習という意味では、まだ十分に意識づけができてはいない。実力考査をもう少し上手に活用することを検討した方がよい。 |
| 総合探究 | 進路・修学旅行(文化・平和)                       | 1. 進路を意識した志望理由書や自己推薦書の作成を実施する。進路選択・オープンキャンパスを通して、進路選択を探る。<br>2. 修学旅行へ行く地での風土・文化を学び。また「平和」に関して学び直す。<br>3. Blue Earth Projectの活動を通して環境問題、持続可能な社会(SDGs)を学習する。 | 1. 志望理由書マスターノートをもとに、段階的に志望理由書の書き方を学び、論述テストを2回実施。志望理由書(リライト)を作成。<br>2. 進路実現のために、業者と提携し、校内OCを実施すると同時に、オープンキャンパスへの参加を計画する。入試制度の研究やその講演会、進路ライブ等を通して自分の進路を考えるきっかけとした。<br>3. 動画資料視聴や平和講演を聴き、自分たちができる平和活動を考えさせる。<br>4. 「奉仕活動の日」にあわせて、高2ACTIONとして、昨年同様の活動をさらに生徒主体で実施させた。<br>5. Blue Earth Projectへの参加を希望する生徒に募集する。グループごとに、テーマを設定し、さまざまなイベントで発表する。<br>6. 性教育講演会としマナ助産院・永原先生のお話を聞き「いのち」についてあらためて考える機会を得る。<br>7. 年に6回「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報を定期的に得られるよう、また、高3の様子をリアルタイムで伝えられるようにする。 | A | ・総合探究の時間をうまく利用し、系統立てて取り組んだ。<br>・進路学習と両方に取り組むには時間数が不足している感がある。修学旅行の学習にもう少し時間をかける必要があったか。                                     |
| 学年行事 | 1. 春の遠足<br><br>2. 修学旅行               | 1. 須磨浦山上遊園で自然に親しみ、友人関係を深める。<br><br>2. 沖縄離島の自然・歴史・文化について学ぶ。   | 1. JR須磨駅に集合し、須磨山上遊園まで歩き、昼食後、下山し解散した。<br><br>2. 友人とともに、4日間石垣島を中心とした沖縄離島で過ごし、用意されたプログラムを体験する。  | B | ・歩く距離・行程などは適当であったが、GW中を考慮し目的地の選定には見当が必要であるかもしれない。<br>・事前学習にもう少し時間を割くことができるとよい。  |

高校3年 ( A よくできた B できた C あまりできなかった Dできなかった )

| 領域 | 対象    | 評価項目        | 実践目標         | 実践内容                | 評価 | 改善策・向上策          |
|----|-------|-------------|--------------|---------------------|----|------------------|
| 高  | 学年の目標 | 学年の目標の理解と実践 | ・人はそれぞれの歌を持つ | 1. 目標は教室と廊下に掲示。学年集会 |    | いよいよ受験を控え、各自でできる |

|             |   |  |   |   |  |
|-------------|---|--|---|---|--|
| 校<br>3<br>年 |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より高い調子を奏でよ</li> </ul>  | <p>や学年だよりで、できるだけ話題としてとりあげた。高3となり、具体的な進路との格闘が始まるが、他人とくらべるのではなく、自分の持て得る力を最大限発揮する=より高い調子を奏でることを目標とし、後悔のないよう、最後の1年を過ごすことを目標とした。</p> <p>2. 学年だよりは月2回発行をめぐり、毎号朝礼等で学年主任が生徒に直接訴えかける形をとった。</p>   | A | <p>範囲のことを精一杯やることを訴え続けた。結果はどうあれ、それが結局最も後悔の少ない生き方につながることを共通理解となるようにした。それでも実際に受験が動き出す1学期後半までは、頭ではわかっている、なかなか受験など進路につながる準備は思うようにはかどらなかった。</p>  |
| 生活指導        | 指導方針の確認と指導体制の推進   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年目となるコロナ禍での学校生活。生徒・教員ともに慢心のないよう心がける。特に食事時など、慎重に生徒を見守る。</li> <li>・生徒指導へのスタンスを学年団で共有しながら、生徒の個々の様子にも目配りを忘れず、真に生徒の向上につながるよう生徒一人一人への柔軟な対応を心がける。</li> <li>・学年団で生徒の様子を伝えあえる雰囲気、普段から作っておく。公式の会議ではない場面でも、できるだけ多く生徒の話を教員間で交わすように心がける。</li> </ul>          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の様々な価値観の中から共有できる点を議論。学年の教員全員が協力して取り組めるよう準備を行った。</li> <li>2. 1学期末より多数の生徒が具体的な受験準備に取り組み出すと同時に不安感も増大し始めた。生徒本人はもちろん、保護者とのやり取りを密にするなど、細やかな生徒指導を心がけた。</li> <li>3. 学年団で、生徒や保護者についての情報交換をひんばんに行った。また進路に関する綿密な会議を多数開催した。</li> </ol>  | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍となり3年が過ぎ、良くも悪くも教員・生徒ともに「慣れた」ように思える。「黙食」など、監督の教員が見ていなくても、問題なく守っていた。本来、昼食時は生徒間の重要なコミュニケーションの時間であり、コロナ収束に伴い、できるだけ早急にコロナ以前の状態に戻すことを検討できるようになることを願う。</li> <li>・生徒の心理面では、進路で具体的な決断を要求される1学期末ごろより、心身の調子を崩す生徒が複数であった。ひどい生徒は一時期学校に来れなくなったりした。1学期当初よりある程度このことを想定し、生徒と向き合う必要がある。どのようなフォローが必要か、臨機応変の対応が求められる。</li> </ul> |
| 学習指導        | 高校最終学年として、自分の進路や人生の目標などを考えながら、具体的なステップを設定し、着実にやるべきことをやる。また2学期以降、大学での学びを意識した学習にもつなげていくことを考える。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実力テスト等の結果を読み取り、具体的に進路を考え、決定していく。</li> <li>・学校での授業はもちろん、高度な内容まで挑戦する姿勢を持つ。</li> <li>・進路決定後も進路先での「その後」に備えた学習・学びを実践する。</li> </ul>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実力テストの結果を適正に理解し、面談等を通じ進路を決定した。</li> <li>4. 自習室の利用など、自主的な学習を促した。</li> <li>3. 単なる受験の知識にとどまらず、読書により世界を広げたり、種々の検定に挑戦するなど、より広い学びを意識させた。</li> <li>4. 進路決定後も学ぶ姿勢を維持するための企画を立て実施した。<br/>(ブルーアースプロジェクト、図書館司書体験、レッツゴルフ、国立民族学博物館見学、新書を読もう、映画鑑賞など)</li> </ol>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期、3学期の活動に『新書を読もう』という企画を、口頭試問の形で行った。初めて新書を自分で選ぶことで、興味を持てた生徒が多かった。</li> <li>・自習室を利用する生徒も増加し、教員に質問する頻度も増えた。</li> <li>・2学期から3学期にかけての体験的なプログラムや、環境を守る活動(BEP)など、積極的に行えた。</li> </ul>  |
| 総合・探求       | <ol style="list-style-type: none"> <li>①過去に学んだ様々なテーマを振り返り、高3として再度「何が大切なことなのか」を探求する。</li> <li>②自分の考えを表現し、意見の違う他者を理解し、また自分を理解してもらえよう意識する。特に冊子化することを最終目標とする。</li> </ol> <p>効率的な答え、素早い答えに価値が置かれる現在の学びのあり方に流されず、真摯に「答えのない問い」に向き合える人間像を目指す。</p> <p>以下の言葉をかみしめたい。</p> <p>「問い」があって「答え」がない。「問い」だけが我々</p> | <p>中1の「マナー」に始まり、「いのち」(中2)・「平和」(中3)・「進路(生き方)」(高1)・「東北・震災」(高2)という、教科の枠を越えた5つの学習テーマからいろいろな事を考えてきた。高3では、これまでの5つのテーマで学んだことを背景にもちながら、もう一度、各テーマに関連する講演会や映画を通して、自分で情報を調べ、改めて「自分の考え」をまとめることとした。その考えの積み重ねが、「人としての“核”」を作ることにつながることを期待する。</p> <p>また総合の活動の最後には、一人ひとりの「考え」を“松蔭での学びの集大成”として冊子にまとめる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1学期<br/>多くの生徒が関わるであろう「志望理由書」を、高2に引き続きライト(書き直し)し、添削を受けた。また5月には「マナー講座」を実施し、面接などで要求される最低限度の高校生としてのマナーを学んだ。<br/>同じく5月にはフリージャーナリスト・西谷文和氏による「戦争と平和」についての講演会を実施。<br/>6月にはいじめ問題をテーマとした映画『青い鳥』を鑑賞し、人と人の関わりなど、生きていく上での問題にどう立ち向かうのか…を考えた。</li> <li>2. 2学期には「いのち」や「生き方」に焦点をあて、机上の学習だけでなく、これからの人生をどう歩むかを多少なりとも考えるヒントとなるものを配置した。<br/>「出生前診断」をキーワードに、ダウン症の保護者の会を主催するチェリッシュ・上村さんの講演を企画。中2の総合</li> </ol> | A | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高3の4月以降、受験に至るまで時間は想像以上に早く過ぎる。覚悟はしていたもの企画・準備など対応が、ややギリギリとなったものもある。</li> <li>2. 講演会など生徒は熱心に参加している。日程が窮屈で、実施後のまとめ、感想の共有をもう少しできればよかった。</li> <li>3. 「いのち」や「生き方」など、「答えのない問い」こそが大切だということを言い続けてきたが、何とか伝わったのではないかと考えている。</li> </ol>   |



|      |             |  |   |  |   |  |
|------|-------------|--|---|--|---|--|
|      |             | を苦しめるという、そういう中で我々は生きて、死んでいけなくちゃいけない。<br>(宗教学者 阿満利磨)    |   | 学習でダウン症の母子との交流を経験した後、高校生となり、「障害」「生きる価値」など、答えのない問いを考える時間を持った。<br>また「あしなが育英会」のスタッフ、学生の講演も聞き、苦勞しながら学ぶ意味、親を早くに亡くすハンディや生きがいについても貴重な示唆を得た。<br>大きなテーマではあるが、これまでの総合・探求の時間を過ごし、どのような感想を持ったか、何を考えたかを全生徒がまとめ、冊子化し、共有することで最後のまとめとした。 |   |  |
| 学年行事 | 校外学習<br>体育祭 | ・教室を離れ、のびのびと社会に触れる。<br>・最後の体育祭にふさわしく下級生の模範となれるような姿勢を示す | ・布引ハーブ園。卒業アルバム写真の撮影などを実施。<br>・全員の行事ではなかったが、多数の生徒が参加する自主企画「ソーラン」は、4月当初より生徒自身の企画・運営により参加。 | A  | ・ハーブ園 天候に恵まれ充実した時間となった。<br>・自主企画による「ソーラン」は様々な困難、トラブルを乗り越え、しっかりとしたパフォーマンスができた。 |  |

2022年度 学校自己評価（校務部）

教務部（A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった）

| 領域  | 対象   | 評価項目    | 実践目標                        | 実践内容   | 評価 | 次年度への改善策・向上策  |
|-----|------|---------|-----------------------------|--|----|---|
| 教務部 | 教育課程 | 教育課程の作成 | 1. 基礎的な学力を身につけさせる。          | わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、定期考査後の補講（学力下位層への指導）などによって、生徒の基礎学力の修得に力を入れた。<br>2022年度で全学年がICTデバイス個人所有となったため、生徒のよりよい授業理解のために活用をした。<br>コロナ等で出席できない生徒には、TeamsやZoom等を活用してオンラインでの在宅学習をフォローした。 | A  | オンラインによる在宅学習について、更に整備をすすめる。引き続き授業改善に努めると共に、学力下位生徒への学力指導について検討をすすめる。<br>新高2で新しい指導要領に対応すべきことに伴い、新指導要領の3観点を意識して、授業づくりに取り組む。<br>ICTも更に積極的に活用する。 |
|     |      |         | 2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導を行う。 | 高1以上では、英語でグレードクラスを編成した。また、選択科目を設置して進路に応じた指導を行った。中1から高1では、数学の能力・意欲が高い生徒対象に特進講座を設定した。<br>英検対策講座は水曜日、高校2・3年生対象校内予備校は月曜日と土曜日に、それぞれ希望者に対して実施した。<br>長期休暇中はもちろん、平日にも講習を設定し、生徒の学力向上につとめた。    | B  | コロナ禍の状況を見ながら、各学力層に応じた講座の設定、内容の一層の改善をはかる。<br>特に高校では2023年度より3コース制が導入されるため、各ポリシーを意識した適切な指導を行う。   |
|     |      |         | 3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。        | 学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回計画した。<br>学習意欲の向上をはかるため、英語検定や漢字検定などを実施した。<br>中学3年生には現時点での自分の学力を意識させるため、全国学力・学習状況調査や基礎学力判定試験を受験させた。   | B  | 実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、進路指導部とも連携しながら対応を考えていく必要がある。また、新しい指導要領に基づいた適切な評価が出来るよう、各教科での準備を促していく。  |
|     |      |         | 4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。       | 総合的な学習・探究の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開した。また、主体的な学びについての研究を進めてもらうよう促した。<br>修学旅行・校外学習や留学プログラムなど、校外での様々な体験・事前学習等の機会を計画した。  | B  | 生徒が主体的な学びをより実践できるように各学年で改善を加える。特に中3総合・高1高2言語探究については、深い学びとなるよう、できるだけ外部組織とも連携しながらすすめる。対外発表も意識する。  |

|  |        |            |                                      |  |   |   |
|--|--------|------------|--------------------------------------|--|---|---|
|  | 研修     | 教員の研修      | 教員の資質を向上させるため適切な研修を行う。               | 全学年に iPad・surface が導入され、Microsoft365 Teams をすべての学年が使用できるようになった。<br>それに伴って、Teams 以外の office アプリも使用を促した。<br>その他、学校が契約している Find! アクティブラーナーの使用を促した。  | C | デジタルデバイスが教員並びに生徒にも浸透してきたと思う。しかしながら、使ってみれば便利であろう多くの機能を周知することができなかった。今後は、教員用デジタル教科書も使用できるようになってくる。このことから、デジタルデバイスの使う頻度は、十分に増えると思われるので、喜ばしいことであるが、さらに探究などで、生徒に使用させる方法を教員に周知することが必要である。 |
|  | 国際理解教育 | 国際交流と国際理解  | 適切な国際交流行事を行い、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせる。   | 1学期には、ニュージーランドのセント・ピーターズ校との春季短期交換留学も聖明女子中学校の来校も新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。夏休みのセント・ピーターズ校への生徒派遣も、信明高校・聖明女子中学校への派遣も中止された。中学校 DS 生徒と GS 生徒がそれぞれ 1 回ずつ聖明女子中学校とオンライン交流を行い、親交を深めた。<br>7月と12月には本校の外国人教師3人で English Camp を行い、異文化と言語の理解を深めた。<br>3学期には、信明高校からの来校が中止された。 | B | いつも行うプログラムが新型コロナウイルス感染症の影響により中止された。来年度に向けて、セント・ピーターズ夏期研修、セント・ピーターズ来校、信明高校・聖明女子中学校への派遣、信明高校来校も復活する予定。  |
|  | 芸術文化教育 | 芸術鑑賞行事     | 適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。                  | 今年度は音楽鑑賞がテーマの年となり、2020年度に中止した「舞太鼓あすか組」の和太鼓公演を実施した。感染症対策のため、神戸文化ホールの大ホールで開催した。2024年度以降の実施サイクルの見直しを行った。  | A | 来年度は「その他」がテーマの年となり、演劇の鑑賞を企画している。「青い鳥ティアティカルカンパニー」による『アーサー王伝説～エクスカリバー物語～』を神戸文化ホール中ホールにて開催する予定である。  |
|  | 学校行事   | 適切な学校行事の設定 | さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。 | コロナ禍の状況を見ながら、運動能力向上・自主性向上のため、様々な学校行事を計画した。<br>2021年度と同様に、体育祭は中高別に、球技大会は2学年ずつに時間帯を分けて実施し、中1DS キャンプは1泊2日に変更して実施した。<br>また文化祭は「中2～高3」と「中1および保護者」対象の2日間で開催した。<br>2022年度については昨年度実施できなかった中2英語研修・高2修学旅行等も実施できた。  | B | 感染症対策に留意しながら、可能な限りの行事を実施できるよう検討する。ただし、年間の各種行事のバランスを検討することも必要である。  |

生徒部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域  | 対象   | 評価項目    | 実践目標  | 実践内容  | 評価 | 改善策・向上策   |
|-----|------|---------|---|---|----|---|
| 生徒部 | 生活指導 | 服装規定の遵守 | ・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。                     | ・担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。※特にスカート丈<br>・頭髪については「長い髪の毛をくくるよう心がける」の指導を学年中心に積極的に行う。<br>・状況に応じて、服装検査を実施する。 | B  | 担任・学年の協力を得ながら指導を実施した。また、学年と相談し、必要な時期に検査をおこなった。                          |
|     |      | 登下校のマナー | ・交通ルール及び公共のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。<br>・あいさつの励行 | ・日常的に登下校指導の実施。<br>・歩きスマホをしないなど具体的な内容の指導の徹底をする。<br>・関係機関と連携しながら補導活動(バス列車補導も含む)を定期的実施。<br>・教員が積極的にあいさつするよう心がける。   | B  | 指導は随時おこなっているが、今後は、保護者向けに Classi を用いた発信もおこなって、安全の確保についての生徒たちの意識を高めていきたい。 |

|     |       |                         |   |  |   |  |
|-----|-------|-------------------------|---|--|---|--|
|     |       | ICT端末についてのマナー           | ・校内のルール(指定された場所・時間以外外出の利用禁止など)の遵守   | ・ルールの徹底。※ICT デバイスの使用場所、著作権、SNS の利用の仕方など<br>・各教員の積極的な指導・声かけを実施する。   | B | 全教員でルールを徹底し、指導していく必要がある。   |
|     |       | 紛失・盗難の撲滅                | ・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。  | ・移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品(携帯電話や財布)は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。  | A | 各担任・授業担当者等の注意喚起・管理の下、効果があった。   |
|     |       | 各種講演会の実施                | ・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。<br>特に、インターネット、SNS の利用について正しい知識を身につける。<br>・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。 | ・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。<br>・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNS などの不適切な書込については、発見次第随時指導する(スクールガードイアンにも依頼)。                            | B | 今年度は情報モラル講演会(中高別)のみおこなうことができた。保護者の皆様にも呼びかけ、計11名の方々の参加を得た。薬物乱用講演会は中止。今後は保護者向けの講演会も検討していきたい。                             |
| 生徒部 | 美化指導  | 校内美化・清掃の推進              | ・トイレ・教室の使用マナーの向上<br>・毎日の清掃活動の徹底<br>・各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施  | ・使用マナーを呼びかける。<br>・毎日の掃除をきちんと行う。<br>・大掃除では、各クラスの役割分担を美化委員が考える。<br>・行事のとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。  | A | 生徒によるトイレ掃除を再開させることができた。行事では体育祭のみ、各クラスに呼びかけをし、運動場で使用した椅子の脚拭きをおこなった。次年度以降も可能な範囲で活動をおこなっていく。                              |
|     |       | ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進 | ・ゴミの減量化<br>・ゴミの分別<br>・ペットボトルのリサイクル活動の推進   | ・できるだけゴミを出さないよう呼びかける。<br>・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。<br>・教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。<br>・美化委員はリサイクル処理を行う。    | A | 新型コロナウイルス感染症の影響により昨年まで中止していた、美化委員によるペットボトルのリサイクル処理を再開することができた。   |
| 生徒部 | 生徒会指導 | 生徒会活動の活性化               | 生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。   | ・あいさつ運動の継続。<br>・マナーアップキャンペーンやあしなが奨学募金など外部のボランティア活動への積極的な参加。  | A | 生徒会の要望により、あいさつ運動を再開することができた。   |
|     |       | 学校行事の充実                 | 体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく。   | ・文化祭・体育祭運営をよりスムーズに行う。<br>・体育祭の競技について検討し、グループ内での一体感を持たせる工夫をする。<br>・文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。<br>・その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。 | A | この数年、新型コロナ感染症対策を念頭に置いた運営が必要だったが、新年度は様々な制限の解除が想定される。この数年試行錯誤して手に入れたやり方のうち、いかせるものはいかし、文化祭・体育祭を、運営、出演、観客それぞれにとって最適なものにする。 |
|     |       | 各委員会の積極的な活動             | 評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す。  | ・評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。<br>・ゴミの分別を確実に実行。<br>・使い捨てカイロの回収の実施を今年度も実施する。<br>・生徒会関係冊子の充実に努める。   | A | タブレット使用によるペーパーレス化・情報配信を継続して実践する。   |
| 生徒部 | 安全教育  | 防火管理体制の整備<br>自衛消防の努力    | 年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防災火意識を高める。  | ・予告して行う訓練と抜き打ちで行う訓練とを行い、どちらの場合でもきちんと避難できるようにする(地震発生想定訓練を含める)。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。<br>・南海トラフ大地震を想定した、防災教育を開始する。                     | A | 教職員および生徒の防災意識を高めるよう働きかける。  |
|     |       | 校内危機対応意識の啓発<br>不審者への対応  | それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。   | ・教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。   | A | Classi も有効に活用し、防犯意識を高めるよう働きかける。  |
|     |       | 全校生徒(特に自転車通学者)への安全意識の啓発 | 全校生徒を対象に年1回の講習を行う。  | ・自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師または啓発DVDを使用し、登下校時の交通安全意識を高める。   | A | Classi も有効に活用して、保護者の方々の協力も仰ぎながら、交通安全に対する防災意識を高めるよう働きかける。   |

|  |     |              |                                  |   |   |   |
|--|-----|--------------|----------------------------------|---|---|---|
|  |     | 応急処置の意識の啓発   | 緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。         | ・年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。  | A | 感染症対策を踏まえた応急処置の方法を学ぶなど、新しい知識を得ることができた。                        |
|  | 性教育 | 実態に応じた性教育の推進 | 性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を正しく理解する。 | ・性について様々な角度から継続的に学び、性に対する考えを深める機会として、中高一貫の6年間に年1回は性教育を実施する。中学1年・2年・3年生、高校2年生では性教育講演会を行う。中学2年生、高校1年・3年生では、保健の授業で取り扱う。また、総合学習や他教科とも連携し、性についての正しい知識の浸透を図る。 | A | 今年度も各学年でテーマを設定し、年に1回性教育をおこなうことができた。今年度の反省をふまえ、次年度も内容等、検討していく。 |

宗教部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域           | 対象      | 評価項目         | 実践目標                                | 実践内容   | 評価 | 改善策・向上策  |
|--------------|---------|--------------|-------------------------------------|--|----|--|
| 宗教           | 日常礼拝の実施 | 講話者当番        | 各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る。               | ・学校行事等の時期も考慮に入れ、副校長や当番学年へ事前連絡をし、担当日を決めてもらった。<br>・体育祭後に写真部の協力によりメモリアルスライドショーを行った。   | A  | 教員のみならず、職員や松蔭に関わる方々にもお話ししていただけるようにする。                                    |
|              |         | 奏楽者当番        | 学校行事や式典の奏楽者を手配し、日時および聖歌番号を事前連絡する。   | ・できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。   | A  | 奏楽者への事前確認を直前に入れるようにする。   |
|              |         | 生徒の参加に関する指導等 | 定時から落ち着いて礼拝が始められるよう指導する。            | ・礼拝前に各自、聖歌等の準備をし、心を落ち着けて礼拝を始めることができるように指導した。   | A  | 早めに講堂へ集合し、静かに礼拝を待つという体制を継続していく。  |
|              |         | 日常礼拝の見直し     | 日常礼拝の回数を少しでも現在より増やす。                | ・かつては毎朝おこなわれていた礼拝のメリット、デメリットを考え、よりよい礼拝の形と回数の検討を重ねた。  | C  | 来年度、日常の学校生活の様子を見つつ、礼拝の回数を増やせるように検討を今後も続けていく。                             |
| 特別礼拝の実施      |         | 説教者の選定       | それぞれの時点でふさわしいと思われる方を選定し、依頼する。       | ・それぞれ、わかりやすく有意義な話をしていた。  | A  | 幅広い分野の方々に依頼できるよう、普段から情報を集め、関係をつくっておく。                                    |
|              |         | オルガニスト・聖歌隊手配 | 活動への参加が決まり次第、正式な依頼をする。              | ・参加が決まり次第、正式な依頼を行った。使う聖歌等についても早い時期に決めて連絡をした。   | B  | 連絡を密にとって、これからも連携していく。  |
|              |         | 式次第・式文の作成    | 説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文をチャプレンが作成・準備した。 | ・各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。  | A  | 余裕をもって作成していく。  |
|              |         | 礼拝形式         | 様々な形式での礼拝を行っていく。                    | ・日常礼拝・宗教週間特別礼拝とも、席の間隔は開けつつも、中・高別での礼拝をおこなった。イースター礼拝は松本あずさ先生(日本キリスト教団はりま平安教会牧師)、一学期は高須純子先生(日本自由メソジスト教団)、二学期は鈴木宣仁先生(どすこい代表)クリスマス礼拝は古澤百代先生(日本キリスト教団神戸東部教会)にお話を依頼した。<br>・クリスマス特別礼拝はキャンドルサービスで行った。 | A  | コロナ禍ではあるが、礼拝で聖歌の歌唱していく<br>コロナ前の状態に戻す。<br>次年度以降もどのような形式での礼拝がいいのか検討を続けていく。 |
| その他礼拝        |         | 参加自由礼拝の企画    | 親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。        | 朝の礼拝、ヌーンサービス、お誕生日礼拝、聖木曜日・聖金曜日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝・震災記念の祈りを行った。  | B  | これからも生徒へ呼びかけ、参加を促していく。<br>新たな企画や改革も検討する。                                 |
|              |         | 奏楽者依頼        | その他礼拝や式典での奏楽をスムーズに行う                | ・学校行事や式典が決まり次第、手配した。<br>できるだけ早くに聖歌番号を決定し、連絡するようにした。  | B  | 連絡を確実にしていく。  |
| 宗教部企画の諸行事の実施 |         | 各種プログラムの企画立案 | 生徒が参加したくなるようなプログラムを企画立案し、生徒に提供する。   | ・1学期の宗教週間中は、放課後の企画「オルガンを知ろう」を講堂で実施した。<br>・2学期の宗教週間中は、レオノラチャペルでクリスマスリース作りを行った。  | B  | コロナ禍の中ではあるが、再開できているものを活発にしていく。<br>今後も情報宣伝活動をより積                          |

|                 |   |  |   |   |   |
|-----------------|---|--|---|---|---|
|                 |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・にじ作業所のパンの販売を実施した。</li> <li>・図書館との協賛でブックリサイクルを行った。</li> <li>・教会訪問は、日本キリスト教団神戸東部教会を訪問した。</li> <li>・2学期の宗教週間には近隣の教会の牧師を招いてクラス講話をレオノラチャペルで行った。</li> <li>・3月10日(金)の放課後に近隣の記念碑を見て回る「震災記念碑めぐり」を行い、中学生 名が参加した。</li> </ul> |   | <p>極的に行い、多くの生徒の参加を促す。<br/>新たな企画についても立案・開拓をしていく。</p>     |
|                 | オルガンレッスン  | オルガンレッスン生を適宜補充し、定期的にレッスンを実施していく。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスン生補充のためのオーディションを二学期末に行い、4名の合格者を得た。</li> <li>・レッスンは、放課後または昼休みに講堂及びレオノラチャペルで行った。</li> <li>・故所俊夫氏ご家族からオルガンの寄贈を受け、小チャペルに設置した。練習やレッスンに使用している。</li> <li>・レッスン生には2学期と3学期に礼拝奏楽奉仕をもらった。</li> </ul>                      | A | チャペルのオルガンの購入を具体的に考えていく。                                 |
| 各奉仕活動の実施        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災支援バザーの開催</li> <li>・災害支援キャンプの開催</li> <li>・にじ作業所の支援パン販売の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるプログラムを考える。</li> <li>・苦しい状況にある人々を忘れない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープンスクール」{オープンハイスクール}でのチャリティ売店は実施できた。費用並ウクライナのために献げた。</li> <li>・春休みの「ワーク・キャンプ」はコロナ禍のため企画しなかった。</li> <li>・コロナ禍で販売場所が制限されたにじ作業所(パン工場ないろ)を支援するため支援パン販売を企画し実施した。</li> </ul>  | C | 新型コロナウイルス感染症の中でも行える活動を模索・検討していく。                        |
| 体験学習の実施         | 真生乳児院の育児体験  | 施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになるよう、プログラムを考える。  | ・1・2学期、土曜日の午後に実施したが、今年度もコロナ禍の中、すべて実施できなかった。   | — | 今後も情報宣伝活動をより積極的に行い、多くの生徒の参加を促していく。                      |
| 人権教育活動の実施       | 生徒向けの人権研修の企画立案  | 今の社会をとりまく諸問題について、的確に生徒に伝えることができるよう企画立案する。  | ・生徒へは「水上のフライト」の映画鑑賞を企画した。鑑賞後はミニ感想文を書いてもらった。また、事前には礼拝において人権に関するお話を人権主任にしてもらった。   | A | 様々なお話しや教材によって幅広く学習する機会を与えていく。<br>さまざまな啓発活動を行う。          |
|                 | 啓発文書の作成   | 大切なことをわかりやすく伝えていく。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権講演会にあわせて講演会の予告を『チャペルニュース』に掲載した。</li> <li>また、生徒のミニ感想文を機関誌『青谷』に載せ、紹介した。</li> </ul>  | A | より分かりやすい文章を考えていく。                                       |
|                 | 教職員向けの人権研修の企画立案   | 教育を行う上で大切な人権感覚を養うことができるよう企画立案する。   | ・教職員向けには、「発達障害について理解を深めよう」という内容で講演会を松本 緑氏(さくらこどもセンター代表)にいただいた。  | A | お話しや取り組みを通して幅広い理解が出来るように考えていく。                          |
| 宗教教育に関するプログラム実施 | 様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案  | キリスト教に対する興味や関心を持たせるとともに、さまざまな人との関わりに共感することができるようなプログラムを企画・立案する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月5日～6日に神戸教区主催の広島平和礼拝が再開し、また広島女学院の署名運動も再開したので、広島への研修を行った。またそのための事前学習会をミカエル教会で実施した。</li> <li>・2学期 核廃絶の署名活動を支援するため、全校生徒に署名用紙を配布し協力を呼び掛けたり、クリスマスの集いでは実際に署名活動を行った。</li> </ul>   | A | 少しでも多くの生徒が参加してくれるよう、今後も情報宣伝活動を積極的に行い、生徒の参加を促していく。       |
| 啓発文書の発行         | 『青谷』の発行   | キリスト教に関連する意見や思いだけでなく、幅広く教職員・生徒の思いを収集し編集していく。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度末での退職者をはじめ、さまざまな方々に広く原稿依頼を行った。</li> <li>・生徒の感想なども取り入れた。</li> </ul>   | A | スムーズに原稿を集める事が出来る方法を考える。<br>宗教部の活動を広く教職員で共有できるような内容を考える。 |
|                 | 『チャペルニュース』の発行   | 定期的に発行し、宗教部の行事や活動を報告する。  | 活動写真などもおりませ合計6回、発行した。   | A | 活動報告だけではなく、広く様々な記事を掲載し、親しみやすい刊行物としていく。                  |

|           |             |  |                           |  |   |   |
|-----------|-------------|--|---------------------------|--|---|---|
|           |             | 「聖句」の教室掲示                              | 教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を紹介する。 | ・年間聖句および5月から月1回の発行を目標に書道部に依頼し、合計8回、各教室と廊下、体育館、事務室前、バス道掲示板等に掲示した。<br>・聖書の箇所の解説をチャプレンに依頼し、聖句と共に掲示した。 | A | 今後も適切な聖句を早めに選び、学内外に紹介していく。                                  |
| 関連諸団体との連携 | 献金・人的支援・その他 | 関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切な支援を考えていく。 |                           | ・ウクライナ緊急支援募金 (YMCA)<br>・障がいを持つ子供の支援団体 (どすこい) へ献金した。  | A | 特別礼拝、クリスマス礼拝の講話者に関わる施設をはじめ、必要とされる場所に献金、人的支援ができるようにリサーチしていく。 |

総務部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域      | 対象 | 評価項目               | 実践目標   | 実践内容  | 評価   | 改善策・向上策  |
|---------|----|--------------------|--|---|--|--|
| 総務部     | 総務 | 緊急連絡システム           | 適切なメルポコの運用・管理・発信をする。<br>ミマモルメへの移行検討・準備をする。         | 各学期にテストメールを配信した。<br>必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。<br>様々な観点から2023年度よりミマモルメへ移行することを決め、移行準備を始めた。                   | A  | 配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定を依頼した。<br>冬休みを利用して現中1～現高2を対象にミマモルメの登録依頼をした。 |
|         |    | 式典・学校行事            | 職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。                        | 設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。   | A  | 設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。  |
|         |    | 奉仕活動の日             | 学年やクラス単位で独自の社会貢献を考え取り組む。                           | 「奉仕活動の日」として、近隣の清掃活動やSDGs関連の取り組みなど、学年ごとに計画した活動を実施した。   | B  | 実施2年目となる学校行事であり、経験を重ね、今後さらに改良されていくことを目標とする。                              |
| 校内施設・備品 |    | 各教室の管理             | 教室の机・椅子の数等を把握する。                                   | 施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。   | B  | 多数の机を移動する行事が終了した直後に教室の点検をする。<br>余りの机・椅子の保管場所の検討が必要である。                   |
|         |    | 空き教室の有効利用          | 放課後校内で行われている活動(部活動・補修など)を掌握する。<br>長期休暇中の教室利用を調整する。 | 通常利用一覧表を掲示し、月別の放課後教室利用を共有のエクセルシートに使用者が入力した。<br>利用頻度が高い場所については、校内イントラネットを活用して予約が重ならないようにした。長期休暇中については、事前に教室使用希望調査を行い、調整した。 | A  | 通常活動場所一覧の更新を定期的におこなう。<br>クラス数減少に伴い、長期にわたり使用頻度が低くなっている教室等の有効利用を検討する。      |
|         |    | 施設使用状況の把握          | 校内施設の使用状況を各部署に連絡する。                                | 月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に翌月の使用状況一覧を配布し、周知をはかった。   | A  | 校内イントラネット及び会議録によって、なるべく早い時期に各部署の利用予定を掌握する。                               |
|         |    | 不良箇所の補修            | 事務部・施設管理係との連携を心がけて速やかに対処する。                        | できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼した。   | B  | 定期的に校内の点検・見回りをする。<br>各学年と連携し、早めに状況を把握する。                                 |
|         |    | 校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配 | 清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。                                | 生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。  | A  | 定期的に在庫の点検をして、計画的にまとまった量を購入することで、コストダウンに心がける。                             |
|         |    | 事業系ゴミの排出           | ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。                          | 指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。<br>産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。  | A  | 紙類の無駄が出ないように工夫する。<br>ICTデバイスの活用により印刷を削減し、紙類の使用を減らす。<br>その他、ゴミの削減に努める。    |
|         |    | 広報(ホームページ・学校報)     | ホームページ(学校の広報)                                      | 分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。<br>定期的に更新する。  | 各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。<br>情報を見やすくすることを心がけた。<br>SNSを活用した。<br>緊急・災害時情報入力フォームを改良した。<br>Blue Earth Project、図書館、同窓会(千と勢会)との情報共有を継続して進めた。 | A  |

|  |                    |                           |                           |   |                             |   |
|--|--------------------|---------------------------|---------------------------|---|-----------------------------|---|
|  | 学校報<br>(1年間の学校の記録) | 記録として分かりやすい内容にする。         | 1年間の正確な記録を集め、1学期末の発行に努めた。 | A   | 写真等を積極的に活用する。各学年に積極的に働きかける。 |   |
|  |                    | ハンドブック<br>(校内のルール・約束事の周知) | 現状に合うように加筆・訂正する。          | 各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。            | A                           | 変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。            |
|  | 資料                 | 資料の整理・保存                  | 資料を計画的に保存する。              | 資料の整理を継続して行った。過去の資料で欠けているものの提供を呼び掛けた。         | B                           | 古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。 |
|  | 記録                 | 写真などのデータの一元化              | 学年で撮影した写真のデータを集約する。       | データが有効に活用できるよう速やかにフォルダに共有した。写真データ収集を各学年に依頼した。 | A                           | 各行事の記録が残るように撮影に努めた。また、学年からの撮影分を随時整理した。      |

進路指導部 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域    | 対象    | 評価項目      | 実践目標   | 実践内容   | 評価 | 改善策・向上策  |
|-------|-------|-----------|--|--|----|--|
| 進路指導部 | 進路指導部 | 進路指導体制の充実 | 目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。               | 卒業生・外部講師による講話や高3生徒による進路ライブなど、生徒に考えさせる機会を作る。                                | A  | 卒業生も積極的に活用できるよう環境整備ができてきた。次年度以降も卒業生を積極的に活用しさらなる充実をはかる。           |
|       |       |           | 中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。   | 各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図る。                                       | B  | 各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めていく。                             |
|       |       |           | 自習室を積極的に活用できる様にする。また質問等しやすい環境の整備をする。               | 各クラスで自習室の利用の仕方ならびに積極的に活用するよう生徒へ周知する。質問スペースの設置を検討し開設する。                     | B  | 質問スペースは開設できた。前年度に比べ自習室の利用も増え始めてはいるがさらなる利用促進のため定期的にアナウンスしていく。     |
|       |       | 進学指導の充実   | 総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。         | 高1総合探究の時間をはじめ、進路学習を体系的に行う。中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行う。オンラインでのガイダンス等も活用する。 | B  | 効果的な進路研究の方法について検討する。   |
|       |       |           | 実力考査の定期的実施し、進学指導に生かす。                              | 実力考査および、高校生のための学びの基礎診断(スタディーサポート)を実施する。                                    | B  | 進路指導に有効に生かしていく方法について検討できた。次年度以降年次進行の形ではあるが実力考査・校内実力判定試験を有効に活用する。 |
|       |       |           | 実力考査の計画的な実施。                                       | 高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝える。                                   | B  | 採用した実力考査が本校の現状に合っているか、常に点検していく。あわせて実施後の資料を有効に生かしていく。             |
|       |       | キャリア教育の充実 | 大学入試制度改革への対応。                                      | 情報収集に努め、生徒保護者集会などを用いて説明する。教員への情報提供も行う。                                     | B  | 新課程入試に向けて引き続き情報収集と情報提供に努める。                                      |
|       |       |           | 受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。              | Blue Earth Project チームYではエコイベントを実施する。高2はチームYでは初めての店舗への依頼活動をグランフロント大阪で行う。   | B  | JELAの学校教育助成金を生かしつつ、高1高2共に今年に続いて校外対面での活動を充実させる。                   |
|       |       |           | 社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気付きの機会を与える。 | 高3のBlue Earth Projectでは3年ぶりに校外でのイベント活動と店舗アタックをコロナ以前と同じ規模で行う。               | B  | JELAの学校教育助成金を生かしつつ、MBSや関大や企業と連携しつつさらに郊外対面活動を充実させる。               |

入試広報室 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 実践目標 | 実践内容 | 評価 | 改善策・向上策 |
|----|----|------|------|------|----|---------|
|----|----|------|------|------|----|---------|

|                       |          |                           |  |  |   |  |
|-----------------------|----------|---------------------------|--|--|---|--|
| 入<br>試<br>広<br>報<br>室 | 生徒<br>募集 | オープンスクール                  | 小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。 | 感染症に気をつけながら、一部内容を変更して実施。                             | B | 他校の説明会・イベントと日程が重複しないよう注意する。                                |
|                       |          | 中学校説明会                    | 主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。                    | 9～11月に3回実施し、本校の教育内容を的確に説明した。毎回、紹介する内容がかわるようにした。      | B | 2回目、担任教員・保護者の方・卒業生の話。適切な時期を検討する。                           |
|                       |          | 授業見学会                     | 授業の様子を見ていただく。  | 松蔭独自の授業をご見学いただくようにした。中学と高校にわけて実施。                    | B | HPなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。                            |
|                       |          | クリスマスの集い                  | 冬のオープンスクールのイベントとして小学生・中学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を感じてもらおう。       | 小学生・中学生のみなさんを楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。    | B | 演劇部を中心に、多くの生徒の活動を紹介した。ご参加人数が減少。今後、多くの方にご参加いただけるよう検討。       |
|                       |          | 外部会場での説明会                 | 遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。           | 10月・11月に宝塚・明石・西神南・阪神西宮・三田で実施。通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。 | B | なるべく日曜日に実施した。  |
|                       |          | 個別相談会                     | 入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。  | 個別ブースを設置。ご希望の方には校内をご案内。                              | B | この時期には併願校をご検討する方がいらっしゃるのにつづけていきたい。                         |
|                       |          | 学外のブース式説明会                | 主に保護者の方からの質問に効果的に答え、ご来校いただけるようにする。                           | 疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。                                 | B | 保護者の方と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」が見えることをより可能にしていく。多くの説明会で来場者数が減少。 |
|                       |          | 学外の講演形式説明会                | 受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。                                 | 3月に「神戸東地区4校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和・松蔭）」                   | B | 他校との合同説明会では、松蔭の特色が際立つプレゼンテーションを目指した。                       |
|                       |          | E L S 講座                  | 2ストリーム制の設置に伴い、校内で小学生対象の英語講座を設置した。                            | 2つのレベルを設定し、幅広くご参加いただけるようにした。                         | A | 講座参加児童の入学も増えてきた。より参加者数を増やし受験に結びつけたい。                       |
|                       |          | 個別の学校案内                   | 個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。                              | 訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。                          | B | 個別見学の申し込みをやすくするよう、HPなどで呼びかける。                              |
|                       | 関連<br>事項 | プレテスト<br>プレテストアドバイス会      | 入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもっていただく機会として実施する。                    | アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。               | B | 多くの方に受験していただけるよう対策を考えたい。                                   |
|                       |          | 課題図書プレゼン入試説明会・課題図書プレゼン練習会 | 課題図書プレゼン入試の説明会を9月・12月に2回、本番へ向けての練習会を12月に実施。                  | 入試の内容をわかりやすく説明。入試へ向けてどのような準備をすればいいか、できるだけ具体的に説明。     | B | 課題図書プレゼン入試を実施していることを多くの方に知っていただく。                          |
|                       |          | 英語面接練習会                   | 英語入試（GS）での受験をお考えの方に、より受験の意欲を持っていただけるようにする。                   | 本番と同じ形式で個別に面接を実施、同時にアドバイスをする。                        | A | 2回に分けて実施   |
|                       |          | オープンハイスクール                | 中学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。 | オープンスクールと別日程で実施した。                                   | A | 9月以後の説明会にご参加いただけるようにしていきたい。                                |
|                       |          | 高校説明会                     | 高校入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。                             | 新しく3コース制になるため、制度を詳しく説明した。                            | B | 授業見学など在校生の様子をより見ていただけるようにした。                               |
|                       |          | 学校案内冊子                    | 教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。                                 | 現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。                            | B | 撮影の機会を多く設けることができなかった。                                      |
|                       |          | 受験雑誌記事                    | 松蔭での教育活動を的確に伝達する。  | 記事原稿作成に協力した。   | B | 積極的な広報を行う。   |
|                       |          | 広告・看板                     | 松蔭の紹介と入試関連日程の紹介。   | 阪神電車、山陽電車、地下鉄に広告を出した。                                | B | より効果的な広告を検討する。   |
|                       |          | ノベルティーグッズ                 | 小学生・中学生が魅力を感じるグッズを提供する。                                      | ポスターと連動したグッズを作成した。                                   | B | 松蔭の特色に合致したグッズで、小学生・中学生に喜んでもらえるものを検討する。                     |



|  |                     |   |                              |   |   |
|--|---------------------|---|------------------------------|---|---|
|  | 塾訪問                 | 塾の先生方との関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。   | 年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。 | B | 引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。 |
|  | 中学校訪問               | 松蔭が高校入試を実施していること、新たに3コース制を実施することを多くの先生方に知っていただく。                        | チラシ、ガイドを作成。女子生徒への配布を依頼。      | A | 他の説明会での情報と連携を密にする。                      |
|  | 公立中学校の先生方対象、私立高校説明会 | 松蔭が高校入試を実施していること、新たに3コース制を実施することを多くの先生方に知っていただく。<br>松蔭の高校入試の概要を知っていただく。 | 10月に神戸市、加印地区の説明会に参加した。       | B | 他の地区でも説明会があれば積極的に参加したい。その後の中学校訪問につなげる。  |
|  | 塾対象説明会              | 教育内容を説明し、塾の先生方を通じて、通塾生、保護者の方に松蔭を知っていただく。                                | 9月に実施。<br>ストリーム制、高校入試について説明。 | B | ご参加人数が減少してきている。来年、実施時期を変更。              |
|  | 模擬試験会場              | 芦研模試6月、10月の2回。同時進行で説明会を実施。  | 今回から男子の受験も可能にした。             | B | プレテスト同様、入試本番に近い形で受験できるようにする。            |

読書運動委員会・図書館（ A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった ）

| 領域   | 対象   | 評価項目                   | 実践目標                        | 実践内容  | 評価 | 改善策・向上策   |
|------|------|------------------------|-----------------------------|---|----|---|
| 図書教育 | 読書指導 | 生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。 | 全校読書運動（第53回）<br><br>読書感想文作成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2022年度は「変化」。</li> <li>・テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。</li> <li>・教員による推薦図書リスト、紹介文をファイルにしてClassiで配信。</li> <li>・生徒たちは、ファイルを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。</li> <li>・優秀作を図書館に展示。</li> <li>・図書館展示終了後、優秀作をポプラ社のPOPコンクールへ応募。</li> <li>・国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度も、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。</li> <li>・感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を11月アセンブリーで表彰。</li> <li>各学年の最優秀作品は、第50回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：入選：3作。高校：特選1作、入選2作。</li> <li>入選の高校3年生と高校1年生の作品は、第68回兵庫県コンクール応募作にも選ばれ、高校1年生は「兵庫県学校図書館協議会賞」を受賞した。</li> <li>・第53回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。</li> </ul> | A  | <p>今年度のテーマは「変化」。</p> <p>委員の教員が会議で話し合い、「新型コロナウイルスが出現して3年目となり、依然制限はあるものの、ワクチンの普及により徐々に日常生活を取り戻すことができるようになってきた。しかしその一方、ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮によるミサイル発射の報道などから、遠くの昔の出来事のように考えていた戦争の脅威が、今や私達にも身近なものになってきてしまっている。さらに、140年ぶりの民法改正による18歳成人は、まさに中高生に直接関わってくる事柄である。松蔭創立130周年を迎える2022年は、歴史的に見ても大きな「変化」が生じている。読書を通して、そのような人類の歩みの中での「変化」を捉え、自分なりに考えられる本との出会いをしてもらいたい。」などという理由で、このテーマに決定した。様々な形で「変化」を感じ取ることでできる推薦図書リストが完成し、全学年共通の「POP作成」の課題も、今年度は「変化」のテーマに合わせて「何らかの仕掛け」を施し変化する作品に仕上げることにした。その結果、各学年段階に応じたユニークな作品が多く提出された。</p> <p>しかし一方で、読書に興味を持ってない生徒も少なくはない。一人でも多くの生徒が読書に対する興味を持てるように、今後も継続して教職員の協力を求めたい。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。</li> <li>・個人の嗜好に合わせた情報の発信。</li> </ul> |

|           |  |  |   |   |  |  |
|-----------|--|--|---|---|--|--|
|           |  |  |   |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。</li> <li>・読書運動冊子の活用法の検討。</li> </ul> |
|           |  | <p>ゴールドカード・プラチナカードの表彰</p> <p>その他</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを授与、2月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）</li> <li>高校でさらに50冊以上読んだ生徒にプラチナカードといつても10冊借りられる特典と図書館クリアファイル授与</li> <li>中学・高校卒業時に今まで貸出した資料リストを配布。</li> </ul>  | A | <p>今年度プラチナカード授与者は2名。ゴールドカード授与者は中学6名、高校1名。うち2名はサタデーライブラリー出身。たくさん本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取組みは、今後も継続。</p> |  |
|           | <p>生徒が図書館を有効に利用できるようにする。</p> <p>生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。</p> | <p>総合学習等の調べ学習の際の利用。</p> <p>授業での利用。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の総合学習のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示。必要時には司書が説明。</li> <li>・授業での利用 J3「調べ方学習」&amp;HI探究。</li> </ul>  | B | <p>各学年・各教科とのさらなる密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。教員側の意識をさらに高めることが課題。多くの教員が図書館に頻繁に来て、本を使った授業の工夫も行うよう促したい。</p>                                 |  |
|           |  | <p>図書館利用のルールの理解、遵守。</p>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生、転入生に対して、オリエンテーションを随時実施。</li> <li>・日常的な利用に際して、きめ細かい指導を実施</li> </ul>  | A | <p>時間不足なので自習時間等別の時間を見て補う。</p>  |  |
|           |  | <p>広報等</p>                             | <p>図書館情報誌「はと時計」「噴水」を発行。本の紹介をはじめ、各種イベントの案内。昨年からclassiに新着図書一覧と、「はと時計」「噴水」を配信。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本ボランティア、読書みくじ等の各種イベントを実施。</li> <li>・高3三学期有志参加プログラムの一環として司書体験</li> <li>・チャリティブックバザーの実施。今年はclassiで呼びかけて保護者の参加も。売上げ全額をチャリティに。</li> <li>・図書館の公式 twitter、facebook instagramのアカウントを運営（2年目）。</li> </ul> | A | <p>「はと時計」の益々の充実を目指す。積極的に楽しく読書活動ができる機会をさらに作りたい。</p> <p>司書体験 参加は8名。</p>  |  |
| <p>選書</p> | <p>係による選書</p>  | <p>生徒、教職員に必要とされる図書の充実。</p>             | <p>係による定期的な選書を実施・生徒からのリクエスト本について随時審議。</p>   | A | <p>3年ぶりにジュンク堂への見計らい選書が実施できた。</p>   |  |